

IBM Watson がソフトバンクロボティクスの Pepper を強化

[米国ネバダ州ラスベガス - 2016年1月6日（現地時間）発]

IBM（NYSE：IBM）とソフトバンクロボティクスホールディングス株式会社（SBRH）は本日（現地時間）、ソフトバンクの人型ロボット「Pepper」向けの IBM Watson を開発し、世界の企業に提供する計画を発表します。

IBM と SBRH は、ソーシャルメディア、ビデオ、画像およびテキストといった従来のコンピューターでは十分に活用できないデータに隠された意味を IBM Watson 搭載の Pepper が把握できるようにするため、「モノのインターネット」で得られる幅広いデータや知識を活用します。IBM Watson は初のオープンなコグニティブ・コンピューティング・テクノロジー基盤で、システムの感知、学習、経験を通じて人と同じように言葉の意味を理解する新しいコンピューティング時代を代表するものです。

開発中の IBM Watson を搭載した Pepper は、基幹機能および開発者やお客さまによって双方向の経験をあつらえることができる IBM Watson のソフトウェア開発キット（SDK）を備えています。IBM はお客さまが、さまざまなパーソナルでプロフェッショナルなニーズに対応するように作られた幅広いプリパッケージの API へアクセスすることを可能にします。

IBM Watson のシニア・バイスプレジデント、マイク・ローディン（Mike Rhodin）は次のように述べています。「今日、コグニティブ・コンピューティングの力はどのようなフォームファクターにも組み込むことができます。Pepper について SBRH と提携することで、より多くの人々が IBM Watson を体験し利用することが可能になります。コグニティブの機能を搭載したロボットとの実際のやり取りを経験したとき、人々が密接に携わりながら、新しくエキサイティングな価値をこの技術から見出すことを目の当たりにするでしょう」

ソフトバンクロボティクスホールディングス株式会社の代表取締役社長、富澤 文秀は次のように述べています。「Pepper 向けの IBM Watson を開発していくことで IBM と協力することになり、とても興奮しています。Pepper は、ロボット開発のプラットフォームとして、優れた技術との連携を可能にしていく予定です。このたびの IBM Watson との連携が、幅広い分野における Pepper の活用の可能性を広げてくれると期待しています」

IBM は現在、サービス業や消費財の企業と共にロボット技術を試験中です。IBM Watson を搭載した Pepper によるソリューションを通じて、企業はお客さまがコグニティブ・コンピューティングを体験するさまざまな方法を拡充することができます。現在の小売におけるセルフサービス環境は通常タブレットかキオスク端末によるもので、真にインタラクティブで直感的な顧客体験の範囲は限られています。ロボットの支援により、お客さまは自分の言葉や身振り、表情が理解され自然に会話をすることができます。

ロボットは、製造業や自動車産業、家庭での電気掃除機まで広く使われていますが、そのようなロボットは機能や相互作用が限定された単一の業務向けの機器であり、特定の仕事を完了するように作られています。IBM と SBRH がコグニティブ・コンピューティングで応用できる分野を広げるために、Pepper のモビリティや機敏性を進化させることで、これまで以上のことができる機会があります。両社は、教室内の教師アシスタントから看護補助まで、IBM Watson のコグニティブ機能によって補完された Pepper 独自の物理的特性を活用して幅広い使用例を研究し、業界の領域全般にわたり新しい方法で人々を支援します。

顧客エンゲージメントを高めることが重視されるにつれ、多くの企業はコグニティブ・システムを、データを理解して得られるつながりの強化に活用しています。IBM Watson のようなコグニティブ・システムは、人に関する新しい情報源から洞察を導き出します。例えば、自分がほしい情報を得るために何がソーシャルメディアでシェアされているか、何が人々にとって重要なのかといったことです。また、このようなシステムによって、人が好むブランドと関わり方を学習し、企業がその結果を利用して性格を理解し、個人に訴求することが可能になります。

この計画は、日本で IBM Watson を展開するという IBM とソフトバンク株式会社の戦略的な協業に基づいています。この1年で両社は、IBM Watson の日本語対応を推進し、IBM Watson を活用した新しいアプリケーションを構築する開発者やサードパーティーのパートナーによる日本のエコシステム全般にわたりコグニティブな API を提供するテクノロジー基盤をローカライズしています。最近の BI Intelligence レポートは、「長年産業界や物流界のユーザーが優勢だったロボット工学は、新しい消費者やオフィスでの使用へとシフトし始めています。2019 年までに消費者および企業ロボットの市場は 150 億ドルに成長するでしょう」と述べています。

IBM Watson : 新時代のコンピューティングの先駆け

IBM Watson は以前のやりとりから時間とともに価値と知識を増して、絶えず学習します。IBM Watson の支援のもと、組織はコグニティブ・コンピューティングの力を利用して、業界を変革し、専門家の仕事に役立て、重要な課題を解決しています。

IBM Watson を発展させるため、IBM には次の 3 つのビジネスユニットがあります。「IBM Watson」は、クラウド上で提供するコグニティブ・コンピューティング技術の開発を目的に設置されました。「IBM Watson Health」は、医師、研究者、保険会社、その他の関連する保健組織の能力の向上を図り、データから新たな洞察を得て個別保健医療を提供することを専門としています。「IBM Watson IoT」は、現在世界で稼働している 90 億以上のネットに接続された機器に組み込まれたデータを理解することに特化しており、それらの機器は 250 京バイトの新しいデータを毎日生み出しています。この IoT データ単体を理解することで、2020 年には 1.7 兆ドルに達すると予想されている重要な市場機会を創出します。

IBM Watson について詳しくは、ibm.com/Watson および ibm.com/press/watson をご覧ください。

■ソフトバンクロボティクスホールディングスについて

ソフトバンクロボティクスホールディングス株式会社は、ソフトバンクグループのロボット事業を統括する中間持ち株会社です。「情報革命で人々を幸せに」というソフトバンクグループの経営理念のもと、傘下の企業は、Pepperをはじめとするロボットや、ロボット関連の製品・サービスを提供しています。

- IBM、IBM ロゴ、ibm.com、Watson は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp.の商標です。現時点での IBM の商標リストについては、 <http://www.ibm.com/legal/us/en/copytrade.shtml> (US) をご覧ください。
 - SoftBank およびソフトバンクの名称、ロゴは、日本国およびその他の国におけるソフトバンクグループ株式会社の登録商標または商標です。
 - その他、この報道発表資料に記載されている会社名および製品・サービス名は、各社の登録商標または商標です。
-